

成田ゆめ牧場カップ低学年少年野球大会特別規則

- 1 ベンチ入り人員は、登録された代表者(私服)、監督(背番号30)各1名、コーチ(同28, 29:監督、コーチのベースコーチとしてコーチャーズボックスに入ることは認める)2名、スコアラー(私服)1名、介護員(保護者)2名以内と、主将(同10)、選手(同0~27)、9名以上20名以内とする。ただし、登録時において選手が9名に満たない場合は3チームまでの連合での出場を認める。
- 2 単独で出場するチームの、ユニフォーム、アンダーシャツ、帽子、ストッキング(アンダーソックス着用)は、各選手(監督、コーチを含む)は同色、同型、同意匠でなければならない。また、連合での出場チームは所属チームのユニフォームの着用を認める(但し、背番号の重複は不可)。また、ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。なお、ユニフォーム着用者以外は、グラウンドに練習中でも出る事は出来ない。しかし審判員の認めた場合は除く。
- 3 ヘルメットは(J S B B)マーク入りで、打者、次打者、ベースコーチ、走者、ボールボーイ(シートノック時)共に両側にイヤラップの付いたものを必ず着用する事。金属バットはJ S B Bのマークの付いた公認のものに限る。**ベンチ入り指導者のサングラス使用は本部の承認を要す。**
- 4 捕手は、ヘルメット、レガース、プロテクター、マスク(S Gマーク付き及びスロートガード付)、ファールカップ(女子選手は除く)を着用する事。
- 5 シートノックは、5分以内とする。
- 6 試合は5回均等回で勝敗を争う。なお1時間15分に達したら新しいイニングには入らず、その時点の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は直ちに「特別延長戦」を行う。また同一投手の投球回数は1試合3イニング(特別延長戦も含めて9アウト)とする。
- 7 「特別延長戦」は、継続打順とし一死満塁から行う。前イニングの最終打者を1塁走者、2塁、3塁の走者は順次前の打者とし、各1イニングで得点の多いチームの勝ちとする。なお勝敗が決しない場合は更にこれを繰り返す。
- 8 「特別延長戦」は2イニング迄とし、勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決する(決勝戦も同様とする)。「特別延長戦」出場選手の交代は許される。**ただし既に交代した選手の交代は認めない。**
- 9 各チームの試合数は1日1試合とする。(最終日は除く)
- 10 **得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後以降10点差以上、4回均等回終了後7点差以上の時に適用する。(決勝戦も同様とする)**
- 11 日没、降雨によるコールドゲームは、3回終了後適用、3回終了前の場合は継続試合とし、翌大会日第1試合に実施するものとする。ただし、決勝戦は再試合とする。
- 12 コーティシーランナー(臨時代走)を認める。
- 13 ベンチは、組み合わせ番号の若番が1塁側で、先攻後攻は、トスとする。
- 14 アピール権は、監督(ファールライン以内)及び当該プレーヤーとする。
- 15 監督が投手の所へ行く回数の制限は公認野球規則5.10を採用する。なお監督が投手のもとへ行く場合はマウンド迄の往復は駆け足を励行する。
- 16 メンバー表の提出は、大会本部へ試合開始40分前に監督、主将が3部持参(放送する場合は4部)してトスと球場等の諸注意を受ける。
- 17 理由なく試合開始時間(15分猶予)迄に会場本部に到着していない場合は、試合を放棄したものとする。
- 18 タイムの回数は守備、攻撃側共に2回以内(特別延長戦は1イニングに1回)とする。
- 19 大会規則は『大会特別規則』を除く他は、最新の『千葉県少年野球低学年大会特別規則』、『公認野球規則』、『競技者必携』を適用して実施する。
- 20 試合球は、全日本軟式野球公認J号を使用する。

会 長 岩 舘 晃
審判部長 村田 直樹
令和5年6月3日改訂